

発生量増大を目指したほだ木育成管理技術の確立

林業研究部 きのこグループ

1. 研究の背景

ほだ木を植菌後2夏目を迎える前にほだ場に移動させる1年起こしは、ほだ起こし作業が前倒しになるため、植菌してから2夏経過した後のほだ木に対して、散水等の管理が容易に行える。生産現場からは「夏以降の水管理技術を確立してほしい」、「1年起こしの適切な起こし時期を知りたい」との要望が寄せられた。そのため、1年起こし後のほだ木育成管理技術と1年起こしの起こし時期を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ① 栽培データ（3品種）と気象データを解析した結果、8月中旬から9月中旬の雨量合計と発生量に正の相関が確認された（図1）。
- ② 8月中旬から9月下旬に散水すると、1年目の発生量が対照（自然条件）に比べて増加した（図2）。
- ③ 1年起こしを11月と5月に行なった場合、通常起こしと比べて1年目の発生量に極端な減少は確認されなかった（図3）。

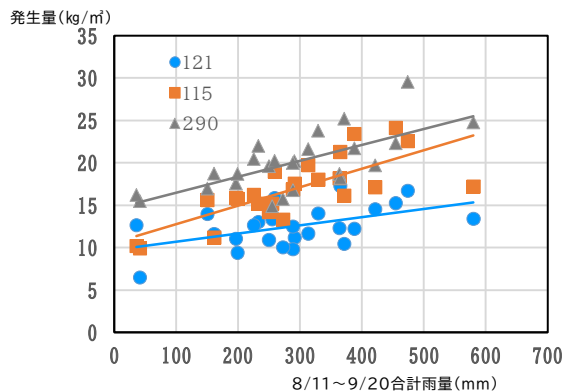


図1：夏季の雨量と発生量の相関

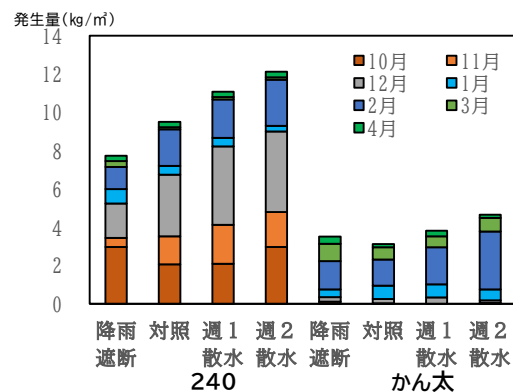


図2 1年目ほだ木の散水試験結果

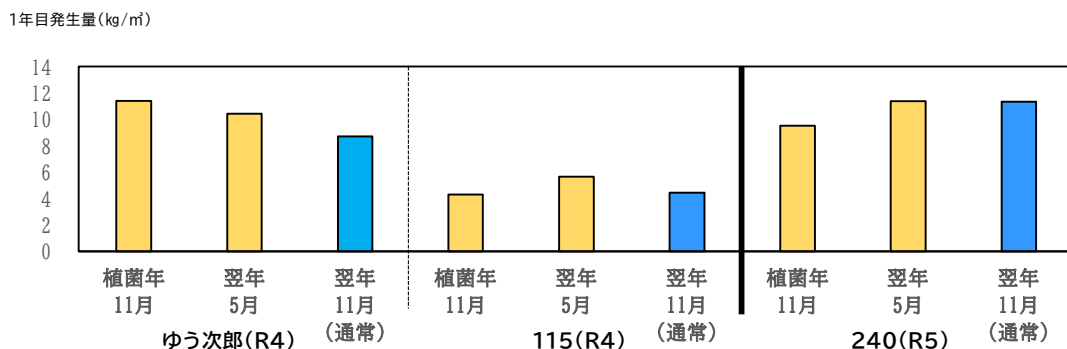


図3：1年起こしの時期の検討

3. 期待される効果

- ・1年起こしや林内伏せしたほだ木への8月中旬から9月下旬にかけての散水により1年目の発生量が増加したことから、少雨年でも散水により発生量の減少を回避することが期待できる。
- ・なお、夏から秋にかけての散水については、引き続き検討を行う予定である。

4. 担当機関連絡先

林業研究部 きのこグループ

TEL:0974-22-4236

住所:豊後大野市三重町赤嶺2369